

Internet Explorer 7 製品版に関する事象および対処法について

2007年12月26日更新

2007年9月28日

コア開発リリースG

コアシステムサービスセンタ

コアシステムにおいて Internet Explorer 7 (以下 IE7) 製品版にてオプション設定等により発生することがこれまでに確認された事象とその回避方法につきまして、以下に説明いたします。

表1 コアシステムにおける IE7 製品版にて発生することがある事象

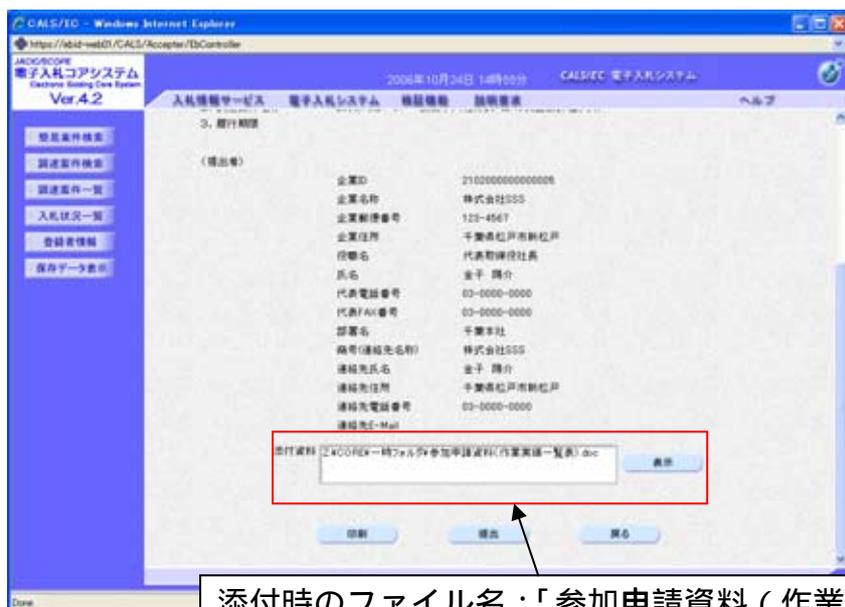
| | IE7 製品版で確認された事象 | 回避方法 |
|---|---|--|
| 1 | 提出された添付ファイルを保存する際に、一部の日本語ファイル名で文字化けが発生する。 (例) 「申」(0x905C) 「神」(0x905F) 「表」(0x955C) 「廟」(0x955F) 「ボ」(0x837C) 「ダ」(0x835F) | セキュリティパッチ「[MS07-045] Internet Explorer 用の累積的なセキュリティ更新プログラム」を適用する |
| 2 | 添付ファイルを提出する際に従来の添付ファイルパスの指定では、ファイルパス情報を引き渡すことが出来ないため、添付ファイルを特定できない事象が発生する。 | 以下のいずれかにより回避可能。 Windows XP SP2 対応としてアナウンスしている「信頼済みサイトへの登録」を行う オプション設定の変更 |
| 3 | 通信ダイアログを含む全ての画面にてアドレスバーとステータスバーが表示され、従来と違う画面となる。 | 以下のいずれかにより回避可能。 Windows XP SP2 対応としてアナウンスしている「信頼済みサイトへの登録」を行う オプション設定の変更 |
| 4 | ウィンドウタイトルに URL が表示される。 | オプション設定の変更 |
| 5 | ファイルのダウンロード時にブロックされる。 | オプション設定の変更 |

【1】提出された添付ファイルを保存する際に、一部の日本語ファイル名で文字化けが発生する。

< 現象 >

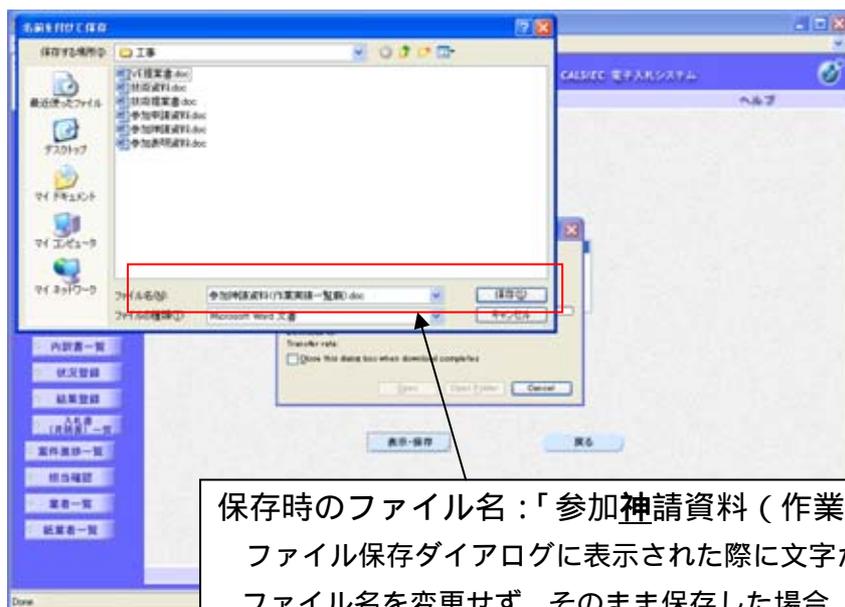
ファイル保存時のダイアログにて、ファイル名の一部の日本語文字が文字化けして表示されます。この文字化けは、ファイル保存ダイアログ上、およびファイル保存後のファイル名の表示上の問題であり、データベースには正しい文字（添付ファイル提出時の文字）で登録されています。

(添付ファイル提出時(受注者))



添付時のファイル名:「参加申請資料(作業実績一覧表).doc」

(添付ファイル保存時(発注者および受注者))



保存時のファイル名:「参加申請資料(作業実績一覧表).doc」

ファイル保存ダイアログに表示された際に文字が化けて表示されます。ファイル名を変更せず、そのまま保存した場合、表示されているファイル名でクライアントに保存されます。なお、データベース上は受注者添付時のファイル名のまま登録されています。

ファイル名に、文字コード末尾が「～5C」「～7C」の日本語文字が含まれている場合、このファイルをダウンロード（保存）する際に、これらの文字の文字コード末尾が「～5F」に変換されるため、文字化けが発生します。

(例)「申」(0x905C) 「神」(0x905F)
「表」(0x955C) 「廟」(0x955F)
「ポ」(0x837C) 「ダ」(0x835F)

< 回避策 >

Windows Update にてセキュリティパッチ「[MS07-045] Internet Explorer 用の累積的なセキュリティ更新プログラム」を適用することで、本事象を回避できます。

パッチの詳細につきましては、以下のHPを参照ください。

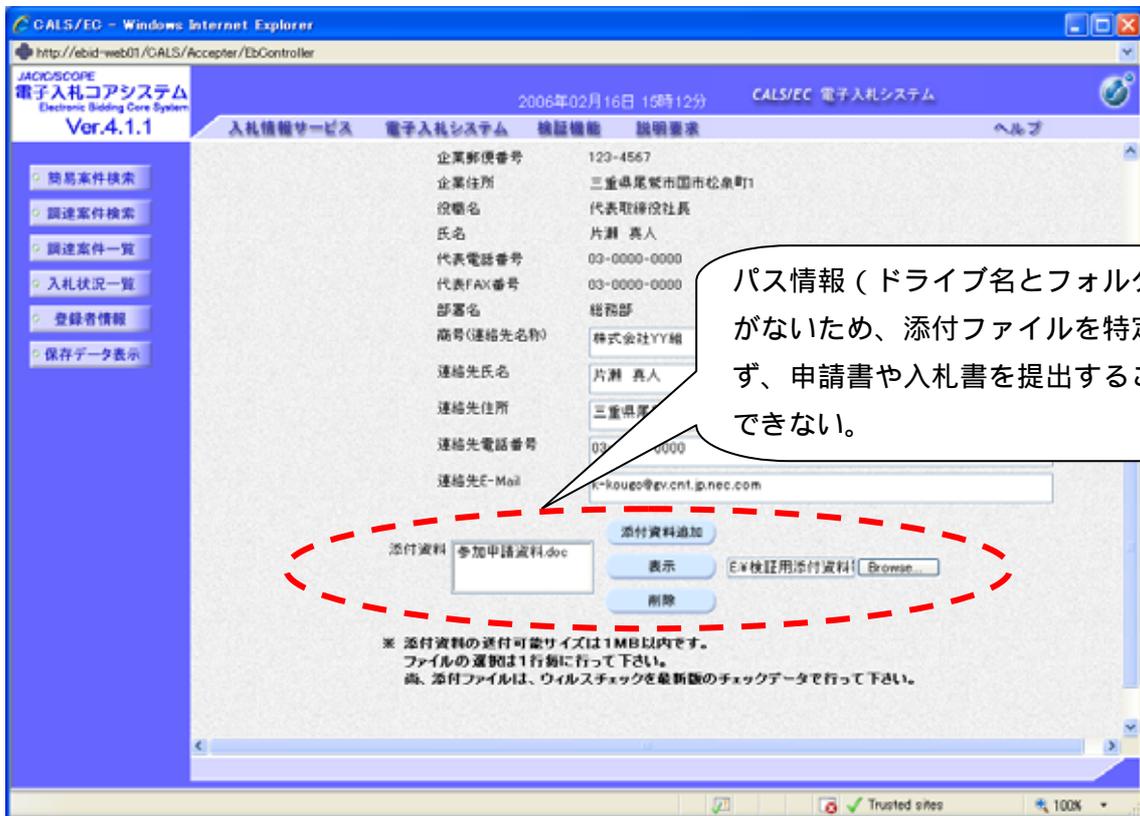
- ・ [MS07-045] Internet Explorer 用の累積的なセキュリティ更新プログラム
<http://support.microsoft.com/kb/937143>

また、上記パッチに含まれる文字化け事象の詳細につきましては、以下のHPをご確認ください。

- ・ Web ページからファイルをダウンロードするために Internet Explorer 7 を使用する時、ファイルの名前が変更される
<http://support.microsoft.com/kb/933133/>

[2] 添付ファイルを提出する際に従来の添付ファイルパスの指定では、ファイルパス情報を引き渡すことが出来ないため、添付ファイルを特定できない事象が発生する。

< 現象 >



< 回避策 >

以下のいずれかの方法により回避可能です。

- 1の方法は、コアシステムの Web サイト個別に設定が有効となるのに対し、 - 2およびの方法はコアシステム以外の Web サイトに対しても設定が有効となります。

このため、特別な事情が無い限り極力 - 1の方法でご対応ください。

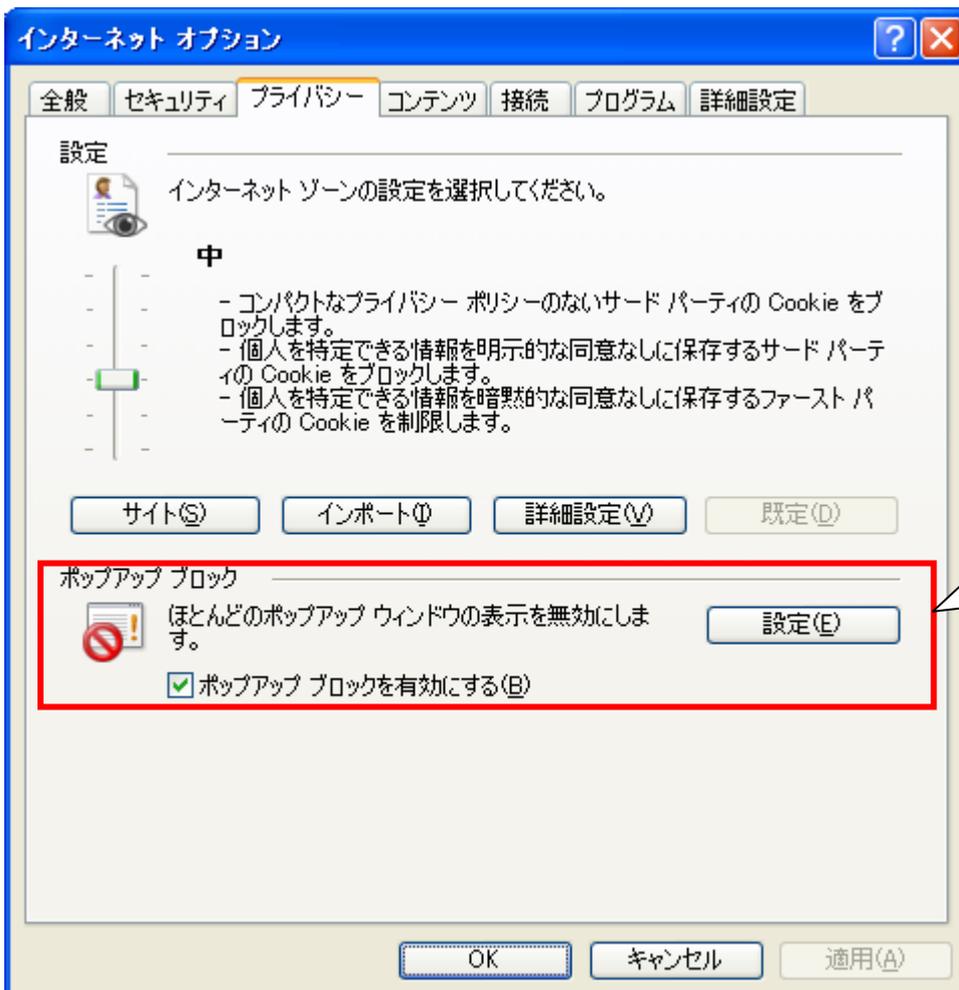
信頼済みサイトへの登録

一般向け情報に掲載しております、[「Windows XP Service Pack2 の利用について」](#)の「信頼済みサイトへの登録」を実施することにより回避可能です。

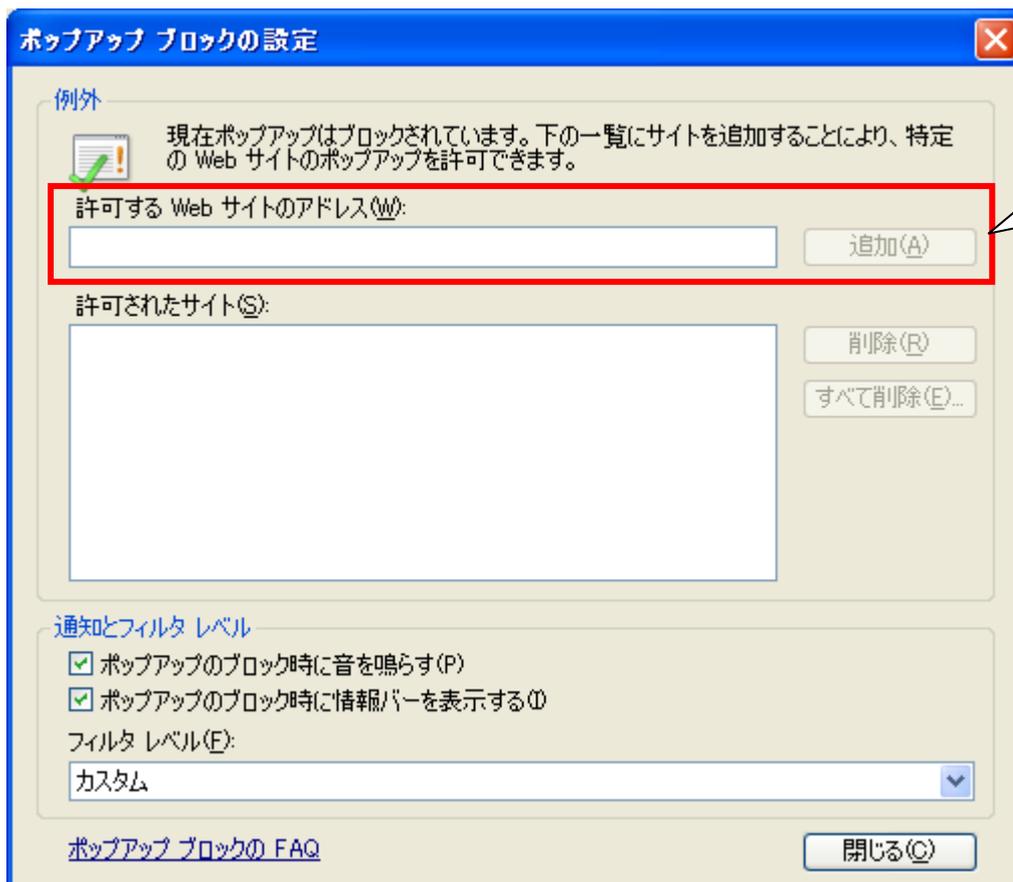
ただし、IE7 では信頼済みサイトにおける「ポップアップブロックの使用」オプションの既定値が「有効にする」に設定されていますので、以下の - 1 / - 2いずれかの方法でポップアップブロックを無効にする必要があります。

- 1 ポップアップを許可するサイトへの登録

以下のとおりに「インターネットオプション」「プライバシー」「ポップアップブロック」の設定画面にてコアシステムの Web サイトアドレスを「許可する Web サイトのアドレス」に登録します。



「設定」を押下して「ポップアップブロックの設定」画面を表示します。



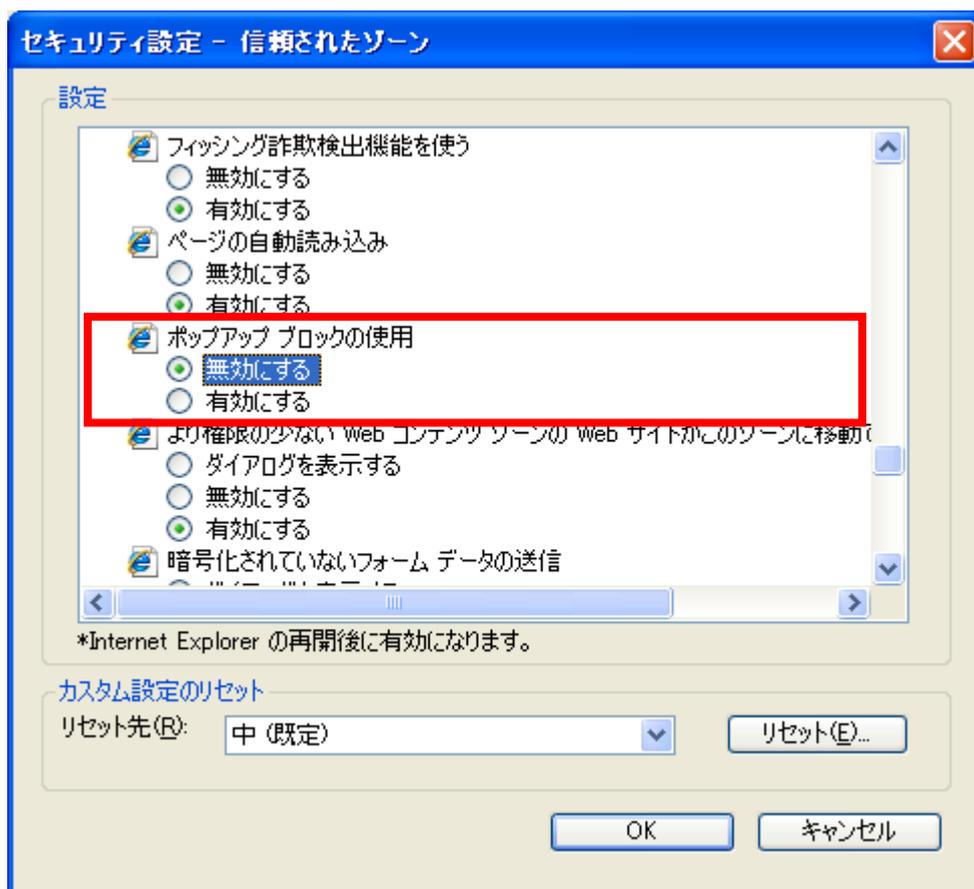
コアシステムの
Web サイトアドレ
スを登録します。

- 2 信頼済みサイトのポップアップブロック使用を無効にする

以下のとおりに「インターネットオプション」「セキュリティ」「信頼済みサイト」の「レベルのカスタマイズ」設定画面にて、「ポップアップブロックの使用」を「無効にする」に変更します。

(注意)

本設定によって「ポップアップブロックの使用」オプションの設定を無効にした場合、コアシステム以外の信頼済みサイトにアクセスした場合においてもポップアップブロックが無効となります。

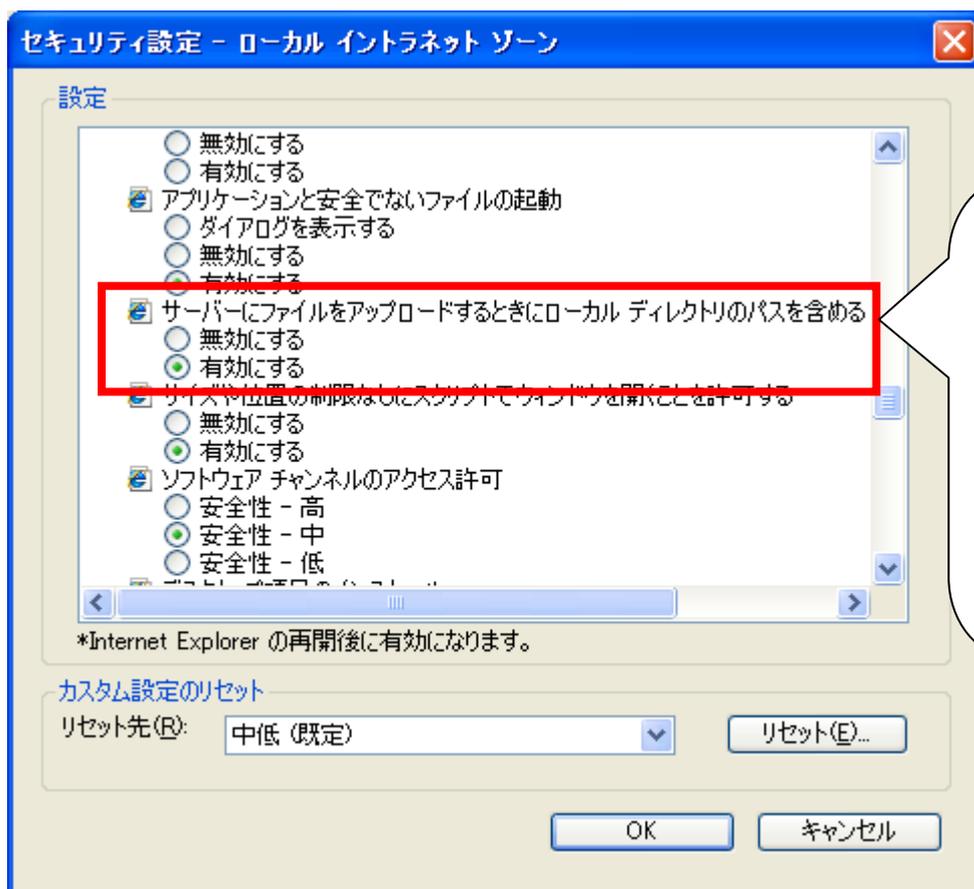


オプション設定変更

「インターネットオプション」「セキュリティ」の「レベルのカスタマイズ」設定画面にて、以下の設定を変更することで回避できます。

(注意)

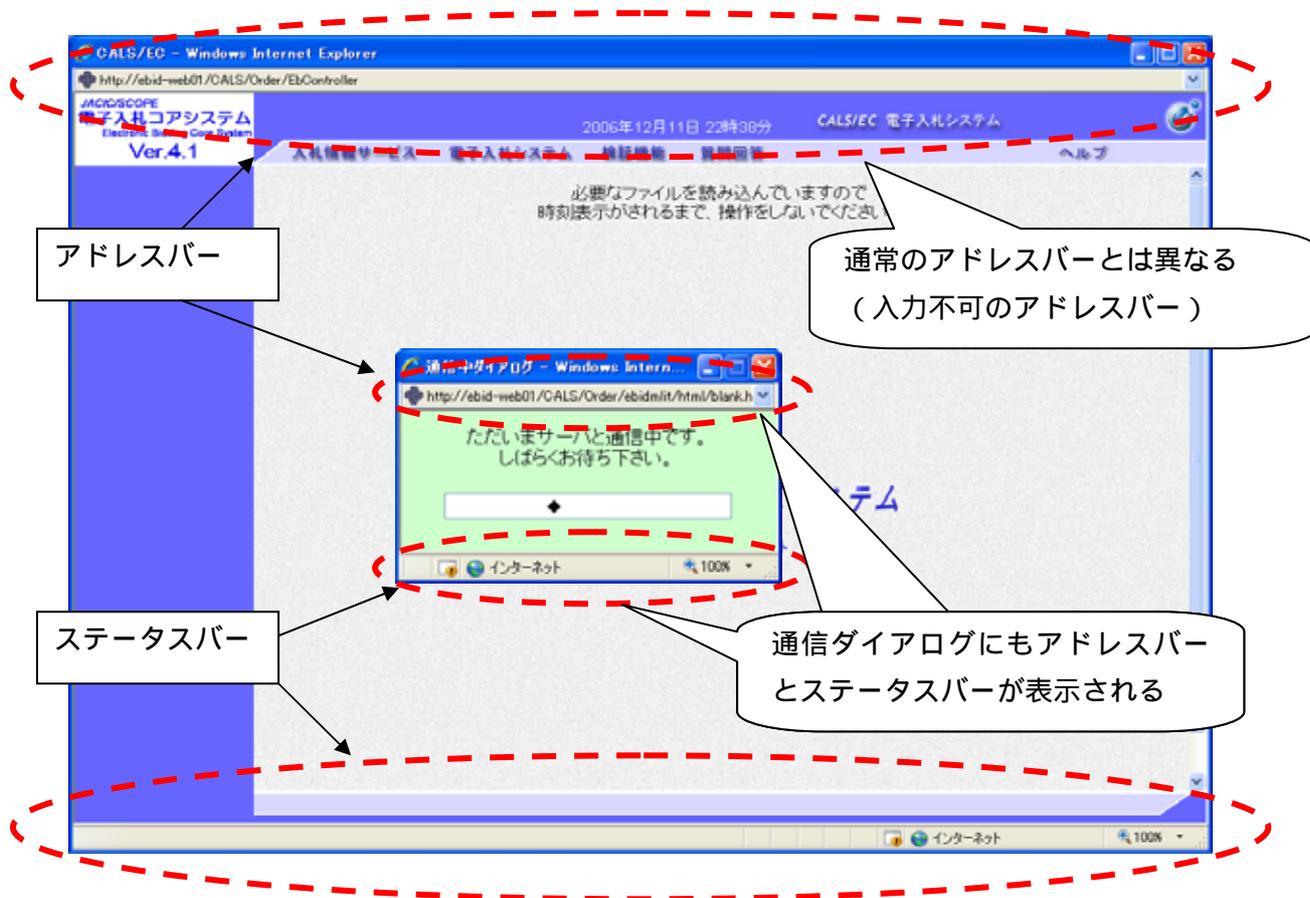
本設定によって「サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める」設定を有効にした場合、コアシステム以外のサーバーに対してファイルをアップロードする際もローカルディレクトリのパス情報が送信されます。



「サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める」項目にて「有効にする」をチェックすることにより、添付ファイルを特定することが行え、申請書や入札書を提出できます。

[3] 通信ダイアログを含む全ての画面にてアドレスバーとステータスバーが表示され、従来と違う画面となる。

<現象>



< 回避策 >

以下のいずれかの方法により回避可能です。

- 1の方法は、コアシステムの Web サイト個別に設定が有効となるのに対し、 - 2および の方法はコアシステム以外の Web サイトに対しても設定が有効となります。

このため、特別な事情が無い限り極力 - 1の方法でご対応ください。

信頼済みサイトへの登録

一般向け情報に掲載しております、[「Windows XP Service Pack2 の利用について」](#)の「信頼済みサイトへの登録」を実施することで従来の画面に戻すことができます。

ただし、IE7 では信頼済みサイトにおける「ポップアップブロックの使用」オプションの既定値が「有効にする」に設定されていますので、以下の - 1 / - 2いずれかの方法でポップアップブロックを無効にする必要があります。詳細につきましては、【2】項の事象に対する回避策「信頼済みサイトへの登録」の内容をご参照ください。

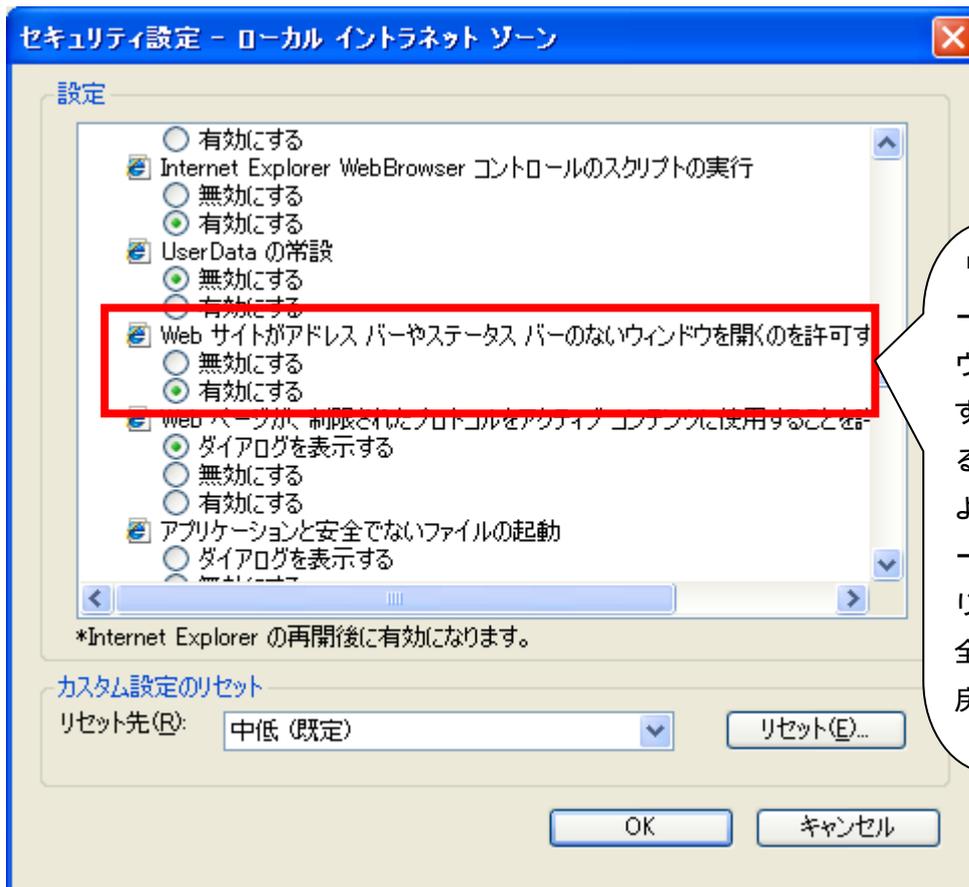
- 1 ポップアップを許可するサイトへの登録
- 2 信頼済みサイトのポップアップブロック使用を無効にする

オプション設定変更

「インターネットオプション」「セキュリティ」の「レベルのカスタマイズ」設定画面にて、以下の設定を変更することで従来の画面に戻すことができます。

(注意)

本設定によって「Web サイトがアドレスバーやステータスバーのないウィンドウを開くのを許可する」設定を有効にした場合、コアシステム以外の Web サイトを表示した場合もアドレスバーとステータスバーが非表示になります。

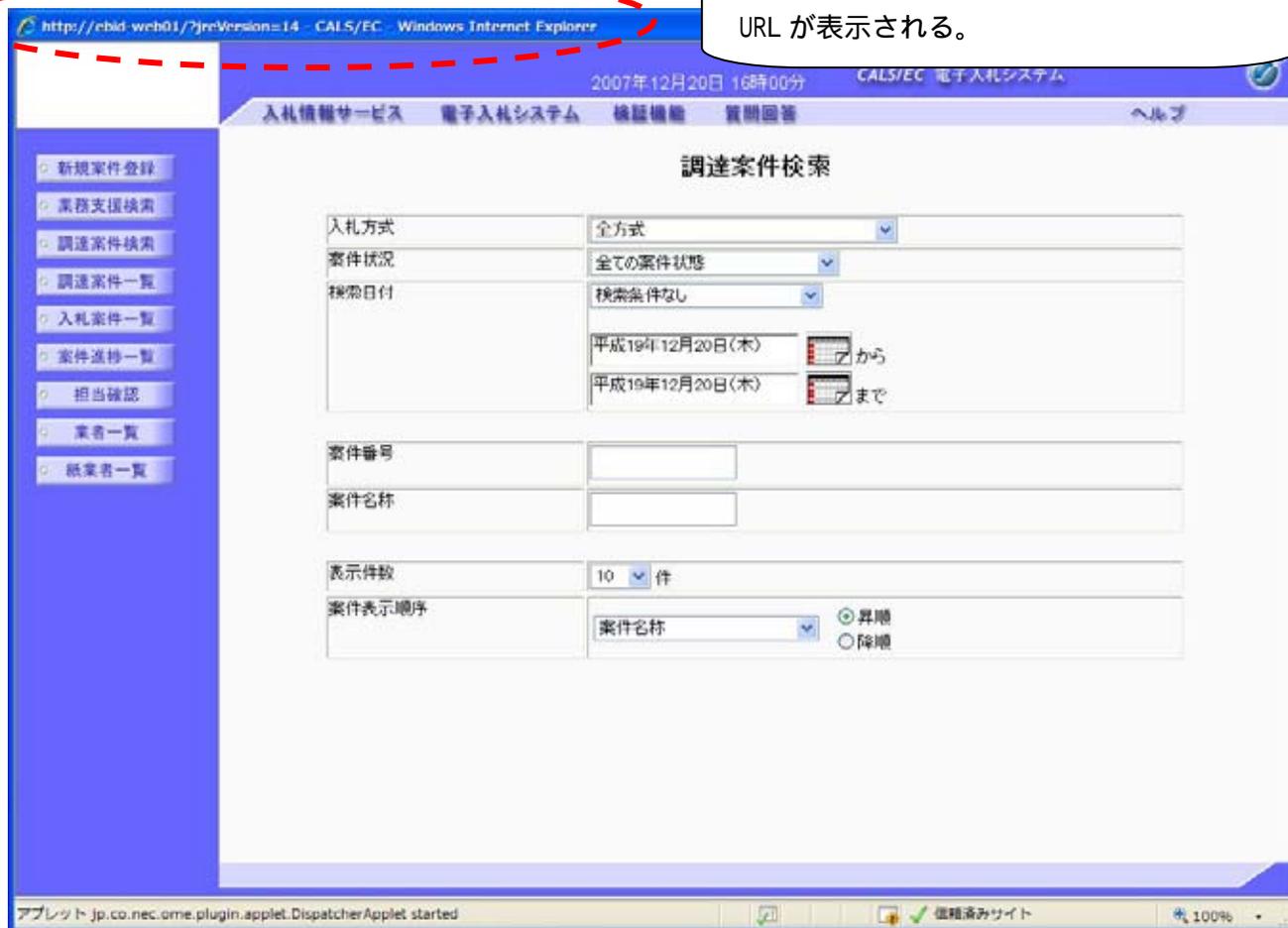


「Web サイトがアドレスバーやステータスバーのないウィンドウを開くのを許可する」項目にて「有効にする」をチェックすることにより、アドレスバーとステータスバーが非表示になり、通信ダイアログを含む全ての画面を従来の画面に戻すことができます。

【4】ウィンドウタイトルに URL が表示される。

<現象>

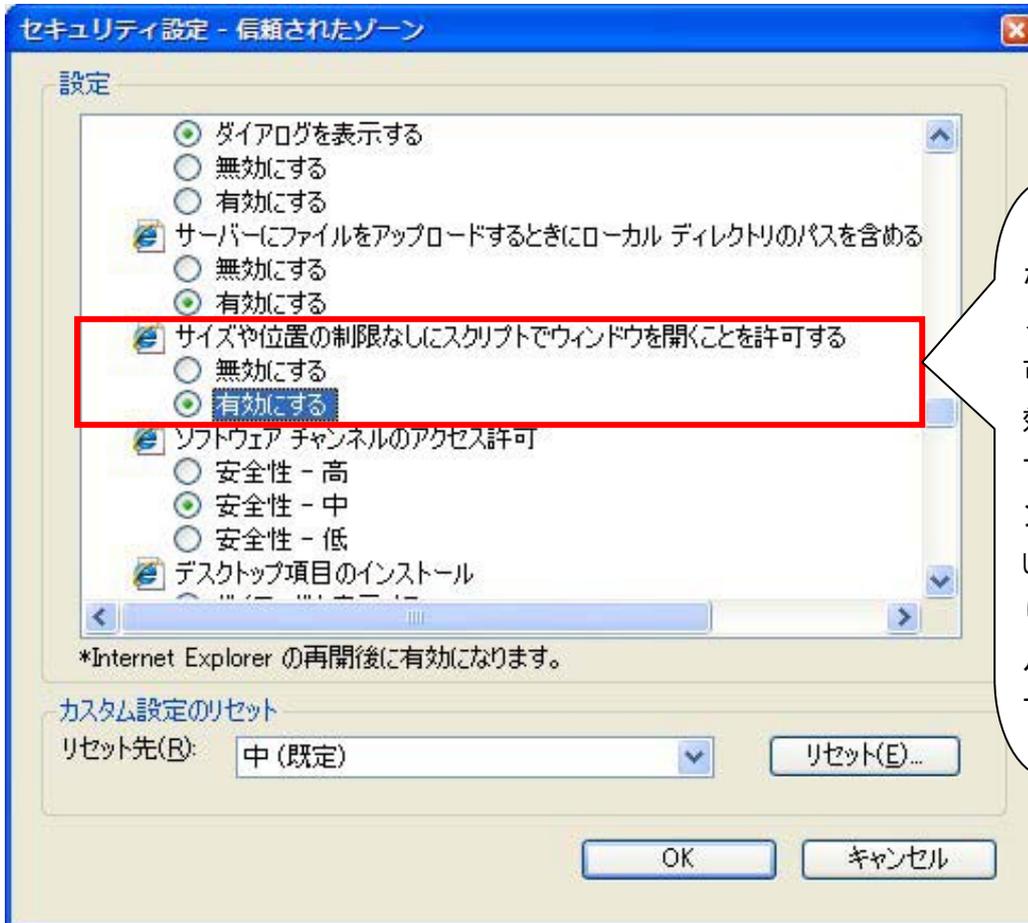
従来と異なり、ウィンドウタイトル部に URL が表示される。



< 回避策 >

オプション設定変更

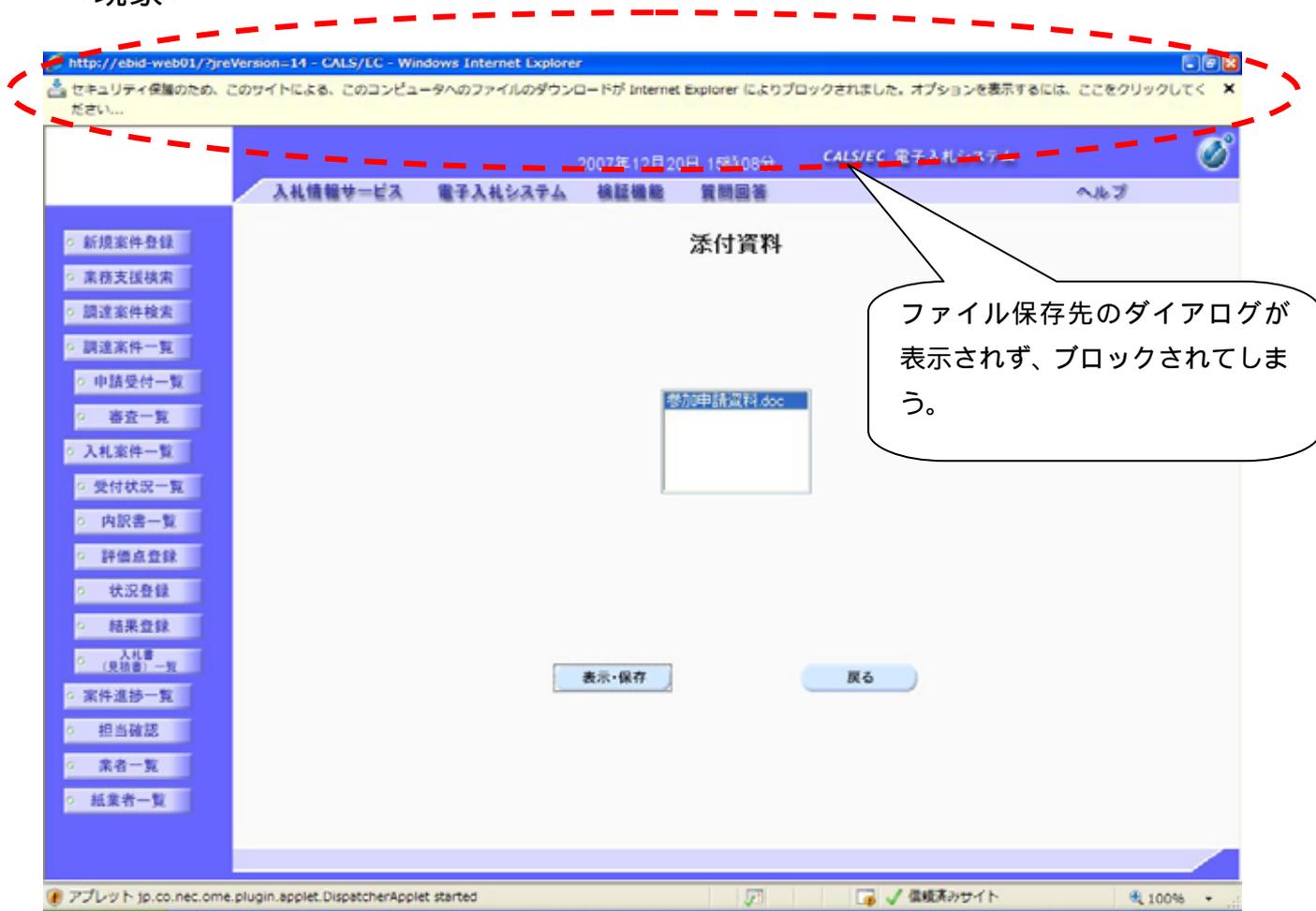
「インターネットオプション」「セキュリティ」の「レベルのカスタマイズ」設定画面にて、以下の設定を変更することで回避できます。



「サイズや位置の制限なしにスクリプトでウィンドウを開く事を許可する」項目にて「有効にする」をチェックすることにより、ウィンドウタイトル部のURLが表示されなくなり、従来と同様タイトルのみ表示になります。

【5】ファイルのダウンロード時にブロックされる。

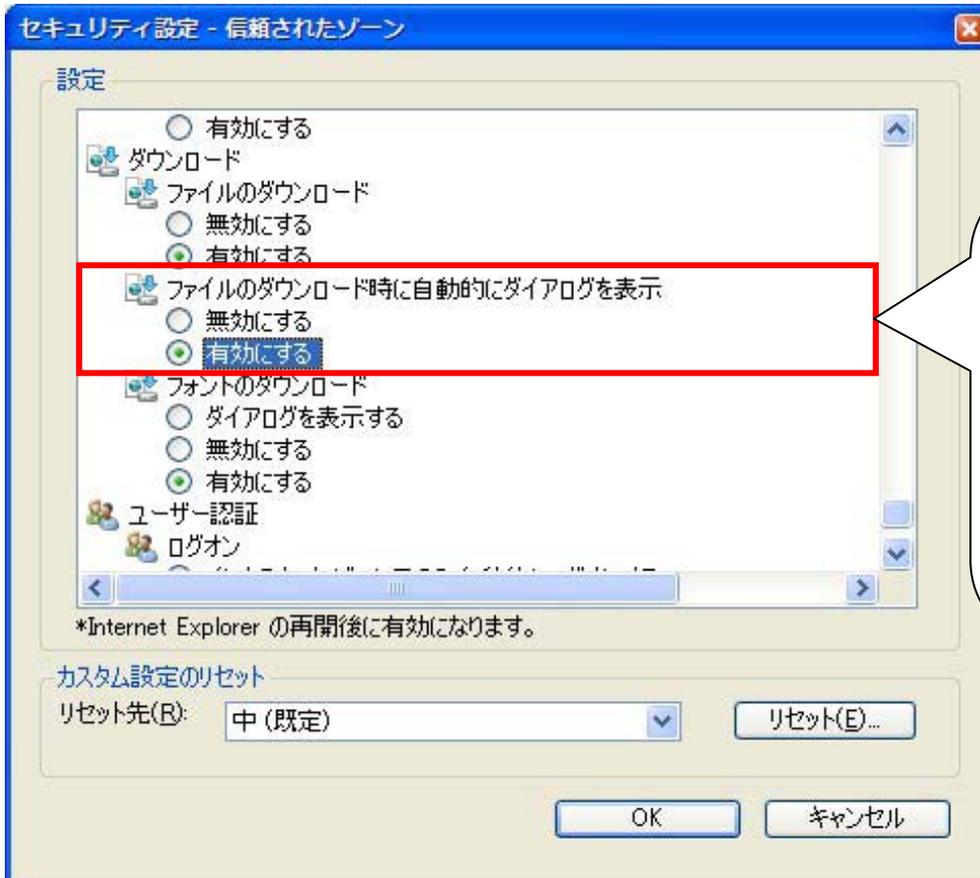
<現象>



< 回避策 >

オプション設定変更

「インターネットオプション」「セキュリティ」の「レベルのカスタマイズ」設定画面にて、以下の設定を変更することで回避できます。



以 上